



第2回交流カフェを開催しました

中部大学 コモンズセンター長 生命医科学科 准教授
伊藤守弘



コモンズセンターの企画の1つである「コモンズ・カフェ」はこれまでに、「歴史カフェ」「法律カフェ」「健康カフェ」を開催し、参加者から好評を得てきました。今回、新たに開催した「交流カフェ」を紹介します。

本企画は、不言実行館運営委員会と高大課題検討委員会の合意により行われている“高大連携”事業です。第1回交流カフェを2月（参加者の関係で2日に分けて実施）に開催しました。対象者は、中部大学に入学予定の併設校生（中部大学春日丘高校と中部大学第一高校）としています。入学前にコモンズサポーターを中心とする学生と触れ合い、大学生活への不安を和らげるとともに入学前学習の動機付けにつなげることを目的としました。交流カフェの企画・運営は、コモンズセンターで行われる全ての企画と同じく、コモンズサポーターの学生が全てを担い、コモンズセンターの教職員がバックアップする形で行われています。企画・立案から運営を学生（上級生）が行っており、教職員主導ではない点が評価され、第1回交流カフェは新聞にも取り上げられました。

第2回交流カフェを、6月30日に開催しました。入学前にコモンズサポーターが企画した第1回交流カフェに参加した中部大学第一高校出身の新入生（116人）が対象です。この回のテーマは「ようこそ！中部大学ファミリーへ」でした。第2回交流カフェは2部構成で行われました。第1部は、石原修学長と西山隆久校長からの応援メッセージに続き、「中部大学第一高校出身の先輩によるシンポジウム」が行われました。各学部から7人の先輩（全て中部大学第一高校出身）に来てもらい、アクティブホールで主に学修以外の大学生活について、

対話形式でコモンズサポーターが司会をしながら進行了しました。第2部は2階のチューデント・コモンズに会場を移し、「おもてなし・交流カフェ」が行われました。大学生活が始まって3カ月が経過している時期にコモンズサポーターやシンポジウムに参加した各学部の先輩と話を進めました。コモンズサポーターが考えた、コミュニケーションを円滑にするカード（ゲーム）を用い、中部大学に入学して良かった点、所属学科での生活、大学生になって変わったことなど、可能な範囲で共有しました。第2部では、中部大学第一高校の高校時代の先生も参加していただきました。西山校長をはじめ、不言実行館運営委員でもある本田紀行教頭、当時の3年担任の先生方と、現在の話や高校当時の懐かしい話題で大いに盛り上がっていました。中には、「勉強の仕方が分からない」といった悲痛な発言もあったようです。最後に、山田公夫不言実行館長の応援メッセージで会を終えました。参加した学生と中部大学第一高校の先生方は、会が終わった後も談笑を続け、会の終わりが名残惜しうでした。参加した学生にアンケート調査を行った結果、第1部のシンポジウムが“ためになった”と回答した学生が全体の90%、第2部のおもてなし・交流カフェに“満足した”と回答した学生は全体の98%でした。アンケート調査からは、良好な感触を得ることができました。

今回参加した学生は51人で、対象者の44.0%に相当します。参考までに、入学前に行われた第1回交流カフェへの参加は67人で、参加率は57.8%でした。既に大学生活に慣れ、大学生としての生活を定着させている学生も多いでしょう。しかし、この会に出席しなかつ

た学生が自らの大学生活を正しい方向で進めているのであれば良いのですが、高校までのさまざまな支援が、大学生になり自主自立を急に求められ、混乱している学生や優先順位の付け方が不適切な学生はいないだろうかと心配になりました。話が横にそれますが、問題を抱える子どもに対して行政はさまざまな支援につなぐよう児童福祉法で定められています。法律上児童の定義は18歳未満であり、18歳になると原則支援は打ち切られてしまいます。この境遇の変化は、高校生から大学生（生徒から学生）への移行に考え方を重ねることができると思いました。社会には、厳しい境遇の18歳を超えた子どもたちを支える各種団体が（少ないですが）存在します。大学においても、本当の自立を果たせるまで支援する体制の強化が必要なのかもしれません。その1つが場所としてのコモンズセンターであると考えています。担当したコモンズサポーターは終了後に振り返りを行いました。その中で、「コモンズセンターが、彼ら彼女らにとってホームになること。ホームを作り、育てることがコモンズセンターの大きな役割だと思っている」と明言しました。コモンズセンターが中部大学で学ぶ学生にとって、人間力を養い本当の自立を果たすための居場所の一つになれるよう、さらなる工夫をしていきます。



おもてなし・交流カフェ